

# こども未来部長目標（令和7年度組織目標）

● こども未来部長 市来 広美（いちき ひろみ）



## ● 業務をもって貢献しているSDGsの主なゴール

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 10人や国の不平等をなくそう



## ● こども未来部の仕事

こども未来部は、こども政策課、こども支援課、こども福祉課、青少年課、保育幼稚園課、こども家庭センターの6課で構成され、子育て家庭への経済的支援、母子保健・子育てに関する相談、放課後児童対策、保育園・幼稚園等に関すること、就学前の障害児が通う施設及びこども支援センターの運営などを行っています。

## ● こども未来部の目標

こどもを中心としたまちづくりを進めていくため、こどもの視点に立ち、こどもの幸せを第一に考え、「所沢市こども計画」に基づき、親子の絆を深める切れ目のない子育て支援、特に寄り添いや支え合いが必要な子育て家庭の支援、保育園や児童クラブの待機児童対策、こども・若者の育成支援などを進めます。

## ● 目標達成に向けた重点事業

No.	事業項目	事業の概要	事業の目標	事業の達成実績
1	切れ目のない子育て支援に関する事業	子育てに関する孤立感や負担感の軽減のため、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援や、関係機関と連携しながら、特に寄り添いや支え合いが必要な子育て家庭を支援します。	妊産婦、0歳から18歳未満の児童、保護者及び関係者等から寄せられる、多岐に渡る相談に対応するとともに、家事等に対して負担を抱える子育て家庭、妊産婦、ヤングケアラー等の家庭を支援員が訪問し、家事等の支援を実施することにより家庭や養育環境を整えます。	・妊娠の届出や出生の届出を行った妊婦・子育て世帯等に対し、LINEの活用や保健師等による面談により、不安や孤独感に寄り添う支援を実施するとともに、令和7年4月から妊婦支援給付金の支給を開始しました。 ・18歳未満の児童、保護者及び関係者等からのさまざまな相談に対応しました。必要に応じて関係機関と連携を図り児童及びその家庭の福祉の向上に努めました。 相談件数：838件。
2	子育て環境の整備に関する事業	すべてのこどもが地域の中で安心して過ごし、健やかに成長できる環境づくりを進めます。	放課後児童クラブの狭小化や大規模化等を解消するため、学校施設の活用などにより、定員を拡大するとともに、入所申込みの結果保留となった児童に対し、夏季休業期間に安全・安心な居場所を提供する事業を新たに実施します。	・民設民営児童クラブの新設（上新井小学校区、西富小学校区）や支援単位増（所沢小学校区）や公設民営クラブの小学校への移転（所沢小学校区、山口小学校区）などにより、定員増を図りました（合計150人分）。
3	こども・若者の育成支援に関する事業	こども・若者にとって安全で安心な居場所づくりを進めます。	中高生世代のこどもたちに、更に児童館に親しんでいただけるよう、児童館の愛称を年度内に決定し、多くの方々に利用いただけるよう工夫します。 また、所沢市LINE公式アカウント「こども・若者情報チャンネル」を活用し、若者の居場所づくりにつながる情報を配信します。	・児童館の愛称を一般公募で募集、その中から候補を絞り、市民の投票により「トコハビ」に決定しました。市内11施設の児童館で「トコハビ〇〇」を愛称として使用し、中高生世代の利用促進に努めました。 ・こども・若者が地域とつながり、一人ひとりにとっての居場所を持てるよう、公式LINE「こども・若者情報チャンネル」で、自習室やボランティア、イベント等の情報を定期的に配信しました。